

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年8月9日
【四半期会計期間】	第66期第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	理想科学工業株式会社
【英訳名】	RISO KAGAKU CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 社長執行役員 羽山 明
【本店の所在の場所】	東京都港区芝五丁目34番7号
【電話番号】	03（5441）6611
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員 コーポレート本部長 池嶋 昭一
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝五丁目34番7号
【電話番号】	03（5441）6611
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員 コーポレート本部長 池嶋 昭一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第65期 第1四半期連結 累計期間	第66期 第1四半期連結 累計期間	第65期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年6月30日	自2019年4月1日 至2019年6月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (百万円)	20,564	19,105	83,900
経常利益 (百万円)	1,344	971	3,660
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,042	605	2,771
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	990	250	2,840
純資産額 (百万円)	61,598	59,851	62,248
総資産額 (百万円)	85,921	82,959	87,158
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	28.53	16.95	76.76
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	71.7	72.1	71.4

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高に消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。
また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)財政状態及び経営成績の状況

当社グループは、2022年3月期を最終年度とした第七次中期経営計画(RISO Vision 22)を策定し、『インクジェット事業を拡大すると同時に、グループ全体の効率改善をすすめ、利益体質を強化する』を中期的な経営目標に掲げて運営してまいりました。

当第1四半期連結累計期間の業績は、前年と比べ売上高は減収、営業利益は減益となりました。

売上高は191億5百万円(前年同期比7.1%減)、営業利益は9億5千7百万円(同31.3%減)、経常利益は9億7千1百万円(同27.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億5百万円(同42.0%減)となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間の期中平均為替レートは、1米ドル109.90円(前年同期比0.83円の円安)、1ユーロ123.49円(同6.57円の円高)となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりです。

印刷機器事業

当社グループは、印刷機器事業として、高速カラープリンター「オルフィス」を主としたインクジェット事業とデジタル印刷機「リソグラフ」を主とした孔版事業を行っております。

インクジェット事業では売上は前年を下回りました。孔版事業では売上の減少傾向が継続しました。為替の円高影響もあり、営業利益は前年を下回りました。

印刷機器事業の売上高は187億8千5百万円(前年同期比7.1%減)となりました。営業利益は8億2千3百万円(同35.0%減)となりました。

日本

インクジェット事業、孔版事業ともに売上が前年を下回りました。売上高は102億1千5百万円(同6.4%減)、営業利益は7億2千6百万円(同20.5%減)となりました。

米州

インクジェット事業、孔版事業ともに売上が前年を下回りました。売上高は11億5千2百万円(同6.9%減)、営業損失は2億4百万円(前年同期は2億2千7百万円の営業損失)となりました。

欧州

インクジェット事業、孔版事業ともに売上が前年を下回りました。為替の円高影響もあり売上高は35億2千1百万円(前年同期比13.7%減)、営業利益は3千7百万円(同86.3%減)となりました。

アジア

インクジェット事業では、売上が前年を下回りました。孔版事業では、売上が前年並みとなりました。売上高は38億9千4百万円(同2.2%減)、営業利益は2億6千4百万円(同14.6%減)となりました。

その他

当社グループは、印刷機器事業の他、不動産事業とプリントクリエイティブ事業を行っております。

その他の売上高は3億2千万円(前年同期比7.3%減)、営業利益は1億3千4百万円(同4.8%増)となりました。

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末に比べ以下のとおりとなりました。

総資産は41億9千9百万円減少し829億5千9百万円となりました。また、純資産は23億9千7百万円減少し598億5千1百万円となりました。この結果、自己資本比率は0.7ポイント増加し72.1%となりました。

主な増減内容は、資産の部では、現金及び預金9億8千9百万円、受取手形及び売掛金33億4千8百万円がそれぞれ減少しました。また、負債の部では、未払法人税等4億7千3百万円、賞与引当金8億6千万円、流動負債のその他4億6千2百万円がそれぞれ減少しました。

(2)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。
また、新たに生じた課題もありません。

(3)研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、14億5千8百万円です。研究開発の活動は主に印刷機器事業によるものであり、その主な成果は次のとおりです。

2019年7月に、デジタル印刷機「リソグラフ」の新シリーズとして「RISOGRAPH SF シリーズ」4機種を発売しました。これまで上位モデルのみに搭載されていた機能をスタンダードモデルに展開し、利便性を向上しました。本製品の消耗品である「RISOインクF タイプ」は、印刷インキに関する環境マーク制度の「インキグリーンマーク」を孔版インクとして業界で初めて取得し、3段階の認定基準のうち最高ランクの認定を受けています。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	135,680,000
計	135,680,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	47,406,332	47,406,332	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	47,406,332	47,406,332	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日	-	47,406,332	-	14,114	-	14,779

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 11,889,300	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,508,500	355,085	同上
単元未満株式	普通株式 8,532	-	-
発行済株式総数	47,406,332	-	-
総株主の議決権	-	355,085	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,800株(議決権の数28個)含まれております。

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
理想科学工業株式会社	東京都港区芝5丁目34-7	11,889,300	-	11,889,300	25.08
計	-	11,889,300	-	11,889,300	25.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,359	16,370
受取手形及び売掛金	15,246	11,897
有価証券	2,000	2,000
商品及び製品	8,604	8,949
仕掛品	830	902
原材料及び貯蔵品	1,988	1,895
その他	2,126	2,200
貸倒引当金	279	270
流動資産合計	47,875	43,946
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,078	21,171
減価償却累計額	13,727	13,863
建物及び構築物(純額)	7,351	7,308
機械装置及び運搬具	6,881	6,758
減価償却累計額	5,597	5,561
機械装置及び運搬具(純額)	1,284	1,197
工具、器具及び備品	14,888	14,896
減価償却累計額	14,075	14,081
工具、器具及び備品(純額)	813	814
土地	17,651	17,652
リース資産	463	492
減価償却累計額	197	209
リース資産(純額)	266	283
建設仮勘定	142	113
その他	11,120	11,198
減価償却累計額	7,429	7,334
その他(純額)	3,690	3,864
有形固定資産合計	31,199	31,233
無形固定資産		
ソフトウェア	1,065	1,048
その他	48	60
無形固定資産合計	1,113	1,109
投資その他の資産		
投資有価証券	1,463	1,457
長期貸付金	19	18
繰延税金資産	2,478	2,247
その他	3,017	2,951
貸倒引当金	8	6
投資その他の資産合計	6,969	6,669
固定資産合計	39,283	39,012
資産合計	87,158	82,959

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,546	11,412
短期借入金	821	954
1年内返済予定の長期借入金	1	1
未払法人税等	679	205
賞与引当金	1,760	900
役員賞与引当金	38	11
製品保証引当金	38	34
その他	7,987	7,525
流動負債合計	22,871	21,045
固定負債		
長期借入金	14	14
退職給付に係る負債	1,324	1,329
その他	699	718
固定負債合計	2,038	2,062
負債合計	24,909	23,107
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,114	14,114
資本剰余金	14,779	14,779
利益剰余金	52,038	50,495
自己株式	18,074	18,574
株主資本合計	62,858	60,815
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12	15
為替換算調整勘定	478	843
退職給付に係る調整累計額	118	105
その他の包括利益累計額合計	609	963
純資産合計	62,248	59,851
負債純資産合計	87,158	82,959

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	20,564	19,105
売上原価	8,365	7,662
売上総利益	12,198	11,442
販売費及び一般管理費	10,803	10,484
営業利益	1,395	957
営業外収益		
受取利息	37	40
受取配当金	27	29
その他	72	51
営業外収益合計	137	121
営業外費用		
支払利息	17	16
為替差損	124	84
固定資産除却損	3	3
その他	43	4
営業外費用合計	188	108
経常利益	1,344	971
特別利益		
受取和解金	212	-
特別利益合計	212	-
税金等調整前四半期純利益	1,557	971
法人税等	514	366
四半期純利益	1,042	605
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,042	605

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	1,042	605
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15	3
為替換算調整勘定	65	364
退職給付に係る調整額	28	13
その他の包括利益合計	52	354
四半期包括利益	990	250
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	990	250
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形等

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
受取手形及び売掛金	475百万円	857百万円
支払手形及び買掛金	310 "	335 "
流動負債その他	7 "	9 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
減価償却費	1,230百万円	946百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	2,202	60	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、当第1四半期連結累計期間において自己株式の取得を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が999百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が16,874百万円となっております。

当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	2,148	60	2019年3月31日	2019年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、当第1四半期連結累計期間において自己株式の取得を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が499百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が18,574百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	印刷機器事業	その他	調整額	合計
売上高				
外部顧客への売上高	20,218	345	-	20,564
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-
計	20,218	345	-	20,564
セグメント利益	1,266	128	-	1,395

- (注) 1. その他には、不動産事業及びプリントクリエイイト事業が含まれております。
2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。
3. 印刷機器事業の地域別の内訳は下記のとおりであります。

(単位:百万円)

	印刷機器事業				
	日本	米州	欧州	アジア	計
売上高	10,918	1,238	4,079	3,981	20,218
営業利益又は損失()	913	227	270	310	1,266

当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	印刷機器事業	その他	調整額	合計
売上高				
外部顧客への売上高	18,785	320	-	19,105
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-
計	18,785	320	-	19,105
セグメント利益	823	134	-	957

- (注) 1. その他には、不動産事業及びプリントクリエイイト事業が含まれております。
2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。
3. 印刷機器事業の地域別の内訳は下記のとおりであります。

(単位:百万円)

	印刷機器事業				
	日本	米州	欧州	アジア	計
売上高	10,215	1,152	3,521	3,894	18,785
営業利益又は損失()	726	204	37	264	823

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	28円53銭	16円95銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	1,042	605
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(百万円)	1,042	605
普通株式の期中平均株式数(千株)	36,554	35,701

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

自己株式の取得

当社は、2019年7月31日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議いたしました。

なお、自己株式の取得に関する事項は、次のとおりであります。

1. 理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行及び株主への利益還元のため

2. 取得対象株式の種類

当社普通株式

3. 取得し得る株式の総数

320,000株

4. 取得価額の総額

500,000,000円

5. 取得期間

2019年8月20日から2019年9月13日まで

6. 取得方法

東京証券取引所における市場買付

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月9日

理想科学工業株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 富永 貴雄 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 比留間 郁夫 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている理想科学工業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、理想科学工業株式会社及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。